

2018.2.7
第165号

発行

福島県市町村
教育委員会
連絡会
北耶両

編集

福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力

小・中学校長会

命を大切にすること



会津教育事務所域内三支会連絡会
会長 秋月 淳子

「命を大切にしましょう」という言葉を、耳にする機会があります。「水を大切にしましよ」に比べると、どうすることが大切にしたいことになるのか、はつきりしない言葉です。長生きをすることが「大切にすることになるのならば、若くして亡くなった方は、命を粗末にしたということになるのでしょうか。病を得て、生死の境をさまよわなければならぬ方も、命を大切にできなかったことになってしまいます。

「蟬せみ・春秋を知らず、伊虫いむちあに朱陽しゆやうの節を知らんや」と示されています。簡単に訳すと、「セミは夏を知らない」という意味になります。むしろセミは、夏をよく知っていると言った方が正しいかもしれませんが、皆さんご存知のように、セミは地下で六、七年の時間を過ごし、夏の週間ぐらいを地上で暮らし、命を終えていくという生き方をします。つまり、セミは夏しか知らないのです。私たちは、春や秋や冬を知っているからこそ、夏を、夏として感じる事が出来るの

ではないでしょうか。夏しか知らないセミは、今が夏であることを知ることはないのです。人間も、「生老病死」という季節（時間）を生きる存在です。ところが、現代社会においては「老・病・死」が遠ざけられ、「生」をいかに楽しく充実させるかに重きが置かれています。その姿勢はまるで、夏しか知らないセミのようです。「生」しか見ようとしない生き方は、本当の「生」を知ることには、つながりません。もちろん「生」を充実させることは大切なことですが、そのためにも、「老・病・死」を自身の問題として考える必要があるのではないのでしょうか。「死」は、私たちに、「いのち」は一度きりで、限りがあり、私たちの思いを超えたものであることを教えてくれます。「命を大切にすること」とは、「いのち」とは何かを考え、「私」を支える「いのち」と出会っていくことではないのでしょうか。

各種受賞紹介 (敬称略)

- 文部科学大臣表彰
 - 地方教育行政功労者表彰
 - 磐梯町教育委員会教育委員 物江 秀典
 - 学校保健及び学校安全表彰
 - 喜多方市立堂島小学校 学校医 武田 尚壽
 - 学校給食表彰
 - 喜多方市立塩川小学校 栄養教諭 長嶺恵美子
 - キャリア教育優良校表彰
 - 西会津町立西会津中学校
 - 「地域学校協働活動」推進に係る表彰
 - 金山町 金小ゆうがたクラブ
 - 優秀教職員
 - 会津若松市立鶴城小学校 教諭 岩本 宏幸
 - 磐梯町立磐梯第一小学校 教諭 古川 潔
 - 福島県立大沼高等学校 教諭 本田 一弘
- 国土交通省表彰
 - 水資源功績者
 - 猪苗代町立翁島小学校
- 県教育委員会表彰
 - 学校教育功労者
 - 会津若松市立行仁小学校 校長 神田 順一
 - 会津若松市立第四中学校 校長 寺木 誠伸
 - 社会教育関係功労者
 - 会津坂下町 佐藤 房枝
 - 文化財保護関係功労者
 - 昭和村 羽染 兵吉
 - へき地教育関係功績顕著な団体・施設
 - 喜多方市立山都中学校
 - 柳津町立西山小学校
- 福島県教職員研究論文奨励賞
 - 磐梯町立磐梯第一小学校
- 優秀教職員
 - 会津若松市立一箕小学校 教諭 菅野 総一
 - 磐梯町立磐梯第二小学校 養護教諭 佐藤 明美
 - 猪苗代町立吾妻小学校 教諭 小椋千恵子
- 「児童生徒（団体）の部」特別功績団体
 - 猪苗代町立猪苗代中学校 男子バドミントン部
 - 女子バドミントン部
- 県学校関係緑化コンクール
 - 《学校林等活動の部》
 - 知事賞
 - 会津若松市立湊小学校
 - 教育長賞
 - 会津若松市立立川南小学校
 - 《学校環境緑化の部》
 - 知事賞・福島県友新聞社社長賞
 - 会津若松市立大戸小学校
 - 教育長賞
 - 磐梯町立磐梯第一小学校
 - 福島県森林組合連合会会長賞
 - 会津美里町立本郷小学校
 - 公益財団法人福島県都市公園・緑化協会理事長賞
 - 会津若松市立湊小学校
 - 公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団理事長賞
 - 会津若松市立立川南小学校
- 奨励賞
 - 三島町立三島小学校
- 県学校歯科保健優良校表彰
 - 最優秀賞
 - 喜多方市立上三宮小学校
 - 優秀賞
 - 会津若松市立大戸小学校
 - 磐梯町立磐梯第二小学校
 - 喜多方市立第一小学校
 - 喜多方市立松山小学校
 - 湯川村立筑川小学校
 - 湯川村立勝常小学校
 - 優秀活動奨励賞
 - 磐梯町立磐梯第一小学校
- 県学校給食会優良団体・功績者表彰
 - 優良団体
 - 会津若松市門田地区学校給食センター
 - 功労者
 - 喜多方市立塩川小学校 栄養教諭 長嶺恵美子
 - 柳津町学校給食センター 調理員 矢部 郁子
 - 福島県教育委員会教育長賞（県産食材活用部門）
 - 喜多方市立熱塩加納小学校給食共同調理場
- ふくしまっ子ごはんコンテスト（学校賞）
 - 会津若松市立一箕小学校
 - 会津坂下町立坂下南小学校
 - 会津若松市立一箕中学校
 - 会津坂下町立坂下中学校
 - 会津美里町立新鶴中学校

総務社会教育課だより ～社会教育関係事業の紹介～

1 学校・家庭・地域連携サポート事業 「学校支援実践研修会」

学校支援事業について、支援の実際や実践発表、研究協議を通して、事業に対する理解を深めるとともに事業に携わるコーディネーターやボランティア人材の資質向上を図るため、下記のとおり開催しました。

(1)日 時：平成29年10月19日（木） 13：45～16：15

(2)会 場：会津若松市立湊小学校

(3)参加者：31名（行政担当者、公民館職員、教員等）

(4)支援活動見学

会津若松市立湊小学校 第5・6学年 「総合的な学習の時間」
郷土料理作り

(5)実践発表

湊地区学校支援地域本部コーディネーター

横倉長政様 横倉英子様

(6)質疑応答・情報交換



2 地域学校協働活動事業

地域と学校が連携・協力し、地域全体で将来を担う子どもたちを育成する新たな体制づくりを図る。

(1)実施市町村：西会津町（西会津小学校、西会津中学校）

(2)取組内容

① 地域活動・ボランティア活動

ア 中学生による「創作和太鼓」

イ 小・中学生による地域ボランティア活動

② 学習支援活動

ア 元教職員や教育に関心のある人、絵画クラブ会員のボランティアによる夏期休業中の学習支援

イ 放課後を活用した学習支援

③ 家庭教育支援活動

ア 就学時健康診断時における家庭教育講座の実施

イ 相談室（「心のオアシス」）での家庭教育支援



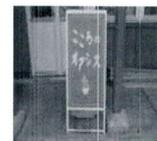
和太鼓発表



ボランティア活動



学習支援



家庭教育支援相談室「心のオアシス」



道徳教育推進事業の取組について

県教育委員会の道徳教育総合支援事業「ふくしま道徳教育推進プラン」の一環としての会津地区の二つの取組についてお伝えします。

1 道徳教育地区別推進協議会

平成29～31年度の3年間の参加割当てにより、小・中・高校の教員39名、PTA5名の計44名で、今年度の推進校である喜多方市立駒形小学校を会場に実施しました。

上越教育大学大学院早川裕隆教授の講話では、質の高い多様な指導方法の一つである「役割演技」について理解を深めることができました。推進校の実践報告及び授業参観では、家庭と連携した道徳教育、教科化に向けた視点による「ふくしま道徳教育資料集」を用いた授業について研修しました。校種別による研究協議では、成果のあった取組や課題の改善策について活発に意見が交わされました。

2 「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会

小・中・特別支援校の道徳教育推進教師を中心とした教員107名により実施しました。

「特別の教科 道徳」の実施にあたって、検定教科書、内容項目、指導方法、評価の在り方について、義務教育課の指導主事より説明がありました。

中学校区による班別協議は、取組状況の情報交換を基に、教科化に向けた自校での取組の方向性をより明確にすることができました。



二つの研修会を通して、「特別の教科 道徳」の完全実施に向けた道徳教育及び授業について、内容項目に留意した全体計画の作成や問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導、学習状況を把握する評価の在り方等、具体的な改善策を見いだすことができました。



「スタッフに感謝」

昭和村教育委員会教育長 本名 幸平

昭和村教育委員会の事務局は教育長の私を含めてわずか5名。感謝、感謝の毎日です。みんな人間味にあふれ、互いを思いやり、テキパキと仕事に立ち向かっていく、すばらしいスタッフです。

教育次長のMさんは卓球の名手。職務上の肩書きは何と「教育次長兼教育係長兼公民館長兼学校給食センター所長兼学校給食センター係長」。

主査のKさんは2児のパパ。保育所の入所式の時、息子さんを満面の笑顔で「だっこ」している写真が「広報しょうわ」の表紙を飾りました。

主事のTさんはいつもニコニコ、温かい語り口。民具整理に、発掘調査に、駅伝大会にと労をいとわず飛び回っている、頼りになる女性です。

社会教育指導員のCさんは生涯学習の各種講座を担当するエキスパート。特にお年寄りの方と交わす言葉の優

しさ。高校生と中学生のお母さん。

昭和村公民館の1階が教育委員会事務局の執務室です。毎日大勢の方がお出でになります。

「いやあ、今日はいい天気ですなあ」「ちょっと、そこまで来たもんだから寄ってみました」「教育長さん、いやったべか?」「ああ、織姫さんだわあ。一緒にお茶でもごっつおになっていくなあ」

スタッフのMさんも、Kさんも、Tさんも、Cさんも、気さくに挨拶を交わし、歓迎しています。それでも仕事が忙しい時は、「さ、さ、どうぞ、教育長室へ」と、私に接遇役を振ってきます。

「あらら、もうオオマガトキになったから帰んなんね」とは、いつも元気なおばあさん。大禍時、逢魔が時。今日も「古語辞典」にでも出てきそうな言葉が自然のうちに語られる、わが故郷昭和村。

教育は人なり。教育委員会事務局もまた然り。日々「スタッフに感謝」。この一語に尽きます。

我がまちからの情報発信

金山町教育委員会

かねやま「村の肖像」プロジェクト

金山町教育委員会は現在、町に残る写真や8ミリフィルムなどの映像資料を20世紀の金山町の文化・歴史を伝える文化資源として位置づけ、調査・整理・保存・活用すべく〈かねやま「村の肖像」プロジェクト〉に取り組んでいます。

この事業では、これまでに町内10地区で映像を囲んでのワークショップを開催してきました。これは、地域の方々に写真をはじめとした映像資料の提供を呼びかけ、持ち寄った映像を皆で閲覧しながら、映像にまつわる思い出や、疑問・発見・感想を自由に話し合う集まりです。厳しくも豊かな自然のなかで、協力しながら暮らしてきた人々の姿や、戦争やダム開発、水害による暮らしの変化を伝える映像が集まる会場は、映像資料の調査・収集の場であると同時に、幅広い世代の人々が地域の過去と未来を語り合う、世代間交流と生涯学習の場になっています。

今後このプロジェクトでは、平成29年に金山町と新潟大学人文学部が結んだ連携協定に基づき、同大の「地域映像アーカイブ研究センター」と協力し、調査成果をまとめたデータベースの構築に取り組むとともに、教育・研究・町づくりなどの広い用途へと資料を活用するための基盤整備を進める予定です。また、成果を町内外にわかりやすく紹介する写真集の刊行も計画していま

す。

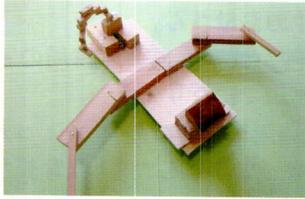
なお、この取り組みの途中経過は、すでに金山町中央公民館図書室において写真アルバムの形で順次公開しています。さらに、平成29年11月から平成30年1月には、新潟市（新潟大学旭町学術資料展示館、砂丘館）および金山町（金山町開発センターほか）の2市町で展覧会を開催し、町内外から多くの反響がありました。身近な映像を通して地域を見直す取り組みは、多くの人に見守られつつ成長しています。



作品と指導

工作

『おりたたみ式ドラゴン』



磐梯町立磐梯第二小学校
4年 加藤 聖志

釘と廃材を使った作品です。釘は木材どうしを固定するだけでなく、木材を曲げて折たためるように打ちました。台に段差をつけながら釘を打つことで、しっぽに立体感が出ました。おもしろいドラゴンに仕上がりました。

指導者 江川 洋介

絵画

『豆電球がついたよ』



三島町立三島小学校
4年 鈴木 美乃里

「一瞬の場面を選んで描こう」と提案したところ、理科の好きな美乃里さんは、電気の学習での「いろいろな回路を作って実験した瞬間」を選びました。ドキドキしたこと、ついた瞬間の感動を表現することができました。

指導者 佐藤 方信

習字

『革新』

西会津町立西会津中学校
2年 水野 美知



生徒会長としての抱負を表現したい、と選んだ「革新」。勢いを表す為に、遅速強弱の筆脈を意識して書くように心がけました。二つの字の配置を考え、繊細でありながら力強い作品となりました。

指導者 佐瀬 裕子

私の抱負

出会いを大切に



会津若松市立北会津中学校
教頭 本多 康夫

新任教頭として緊張の中で着任し、早くも十ヶ月が過ぎました。四月当初は、文書の整理で右往左往しましたが、校長先生をはじめ先生方に温かく支えていただきました。本校は、新校舎に移り七周年を迎えます。自然に囲まれた素晴らしい校舎には、とても素直で元氣よくあいさつする生徒たち、いつでも生徒に全力でぶつかる先生方、そして、頑張る生徒たちに励ましの言葉を掛けてくださる保護者の方や地域の方々が集います。その中で、たくさんの方と出会い、支えられて充実した毎日を送っています。

心に火を灯す



福島県立西会津高等学校
教諭 三瓶 美紀

高校時代から憧れていた高校教諭となり、早くも十ヶ月が経ちました。今、穏やかで素直な生徒たちの更なる成長を願い試行錯誤する日々に喜びを感じています。未熟な身ですが、恩師のように生徒の自己実現を支えられる教諭になることが私の目標です。生徒が自己実現を図るのは大きく変動する未来です。技術革新が進展し人工知能と代替可能な労働も増え、創造性が求められる社会になることと思います。その中で助けになるのは他者と協働し考え抜く力だと思えます。国語の学習を通してその力を培えるように指導力の向上に努めます。先達の先生方のように生徒の心に火を灯し、夢の実現を支える教諭を目指し日々自己研鑽に励みたいと思えます。

心子ども達とともに



柳津町立柳津小学校
教諭 田部 有衣

初めての土地、初めての学校、初めての一年生担任。岐阜県高山市より赴任し、不安ばかりつのる毎日でした。その中で、温かく見守り励ましてくださる先生方や保護者の方々に支えられ、一年生の子とも達と一緒に新しいことに感動したり、挑戦したり、笑い合ったりしながら過ごして行くことができました。子ども達の頑張る姿や何かを成し遂げた姿、全力で楽しむ姿を近くで感じられるこの仕事は、幸せであると同時に責任も感じます。この地で出会えたこと、教育活動に関わらせていただけることに感謝し、子ども達の成長のために、笑顔でいることを忘れず、さらに一層励んでいきます。